

ファシリテーションの研修

「ファシリテーション研修会」要項

○目的

平成30年12月21日中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、新たな社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育の実現」を目指している。社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりの実現には、社会教育主事が「学びのオーガナイザー」として、様々な取組全体をけん引する中心的な役割を担うことが期待されている。そのために必要な資質や能力の一つである「ファシリテーション能力」の向上を図り、地域住民をはじめ様々な立場の人々の力を引き出し、主体的な参画を促すための実践的な力を培う。

○主催

大河原地区社会教育主事研究協議会

○日時

令和5年9月21日（木）

8時50分から12時10分まで

○会場

大河原合同庁舎 別館1階 第一会議室



○講師

特定非営利活動法人 地星社

ワークショップデザイナー 赤川 泉美 氏

2006年から社会教育の仕事に携わり、2013年には非営利活動法人日本ファシリテーション協会東北支部運営委員として活動。

2017年からは非営利活動法人地星社スタッフ（認定ワークショップデザイナー）としてファシリテーション研修講師、グラフィックレコーディング講師、地域づくりワークショップファシリテーター等として活躍している。



○内容

「ファシリテート能力の向上を図るには」

- ・ファシリテーションの4ステップ
- ・話し合いをデザインする5つの要素

ファシリテーション (Facilitation) とは？

元々はアメリカの心理学者グループで考案された、体験学習の手法である。学習や教育、市民活動で活用された後、会議などビジネスの場面で広がった。

学生やお年寄りなど様々な立場の人がいる社会、それぞれ異なる価値観を1つの目標に向かって活動を進めるのは困難なことであった。そのため、目標達成を「促進する、容易にする」技術が求められ、ファシリテーションと呼ばれるようになった。

特に多種多様な人種と価値観が集まる環境で、新しいビジネスを生み出すにはファシリテーションの技術が有効である。どちらかが正しい、間違っているというディベートではなく、新たなアイデアを生み出しサービスを育てていくために必須だった。

1990年後半になると日本にも伝わり、日本ファシリテーション協会の初代会長らにより、『ファシリテーションは「場のデザイン」、「対人関係（意見を引き出す）」、「構造化する」、「まとめる（合意形成）」という4つのスキルの上に成り立っている』と定義された。

近年ではファシリテーションという言葉も少しずつ浸透しているが、誤解する人も多いようだ。司会をすること、会議を運営すること、付箋を使ってなにかすることではなく、目的を達成するために人々の能力を最大限に引き出す技術がファシリテーションである。

(参考) ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社HPより

ファシリテーションの4ステップ

ファシリテーションとは人々の力を引き出し、主体的な参加を促すために必要な能力ということを確認した。では、具体的にどのような技能を身につければ良いのだろうか。

ファシリテーションには、大きく「共有」「発散」「収束」「決定」という4つのステップがある。この4つのステップにおいて、それぞれ「場のデザイン」「対人関係」「構造化」「合意形成」というスキルが求められる。

① 場のデザインスキル (共有)

この場のデザインについてもいくつかの要素がある。まずは「雰囲気づくり」である。参加者が安心して話し合いや学びに参加できるような工夫が求められる中で、実際にどのようなことができるのだろうか。今回の研修では部屋に入る前に「ようこそ！」と書かれた貼り紙があり、進行表やルールが分かりやすく共有されていた。また、お菓子や飲み物などリラックスしてその場にいられるような工夫はまさにこの雰囲気づくりの具体的手法となっている。緊張をほぐすためのアイスブレイクや装い、話し方など、どのようにすれば話しやすい雰囲気をつくれるか、ファシリテーターのスキルがまさに試される。

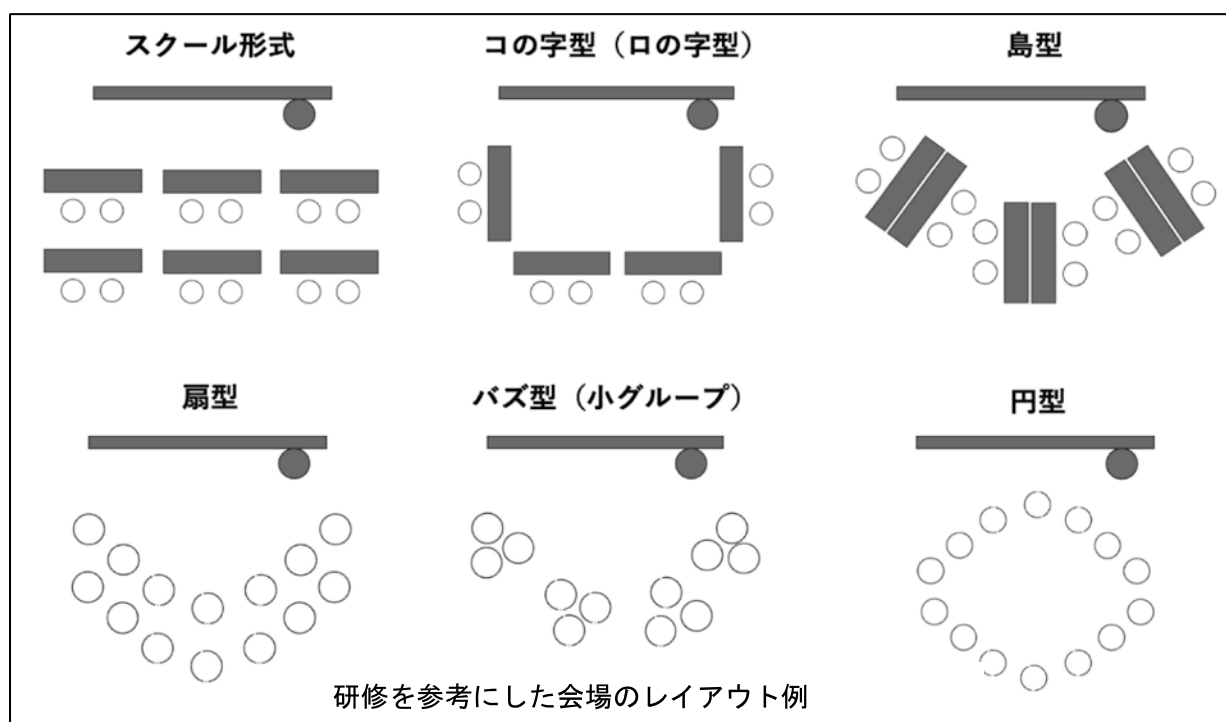
【雰囲気づくり】

- アイスブレイク……自己紹介や身近な話題、ゲームなど
- 表示物………歓迎する貼紙、進行表、ルールなど
- その他………お茶やお菓子の用意、話し方や装いの工夫、音楽、名札など

次に「環境づくり（空間デザイン）」がある。これは場所による制約も影響するが、机や椅子の配置、距離感などがある。よく会議や講座はスクール形式やコの字型で構成されているが、様々な場面に合わせた個別最適な環境を考えたい。参加人数や部屋の大きさなどにもよってしまうが、これについてもどのようにすれば参加者が安心してこの場にいられるか考えて実践する必要がある。

【環境づくり（空間デザイン）】

- 机の配置………バズ型（小グループ）、扇型、円型など
- 椅子の配置………距離感や向き合う角度など
- 会場選び………洋室、和室、広さ、温度など



最後に「プログラムデザイン」である。目的や目標の共有、進め方、役割などがあるが、これについては別途＜話し合いをデザインする5つの要素＞で触れる。

② 対人関係のスキル（発散）

これは「発散」のステップにあたるスキルで、まさに意見や参加者のことを受け止めて引き出すスキルである。

○聴く（傾聴）…相手の発言をよく理解しようとして、意識的に話を聴く。

- 2つのレベルで集中して聴く
- 非言語メッセージも読み取る
- 話に興味を持って、分かろうと思って聴く
- 自分からも聴いているよというシグナルを送る
- 判断抜きで理解しようとする

◆バスのゲーム（聴くスキルがどの程度あるかを判断する）

[ルール]・メモをとらないで頭で考えてみましょう。みなさんはバスの運転手です。

[問題] A停留所で乗客が10人乗りました。B停留所で3人降りて2人乗りました。C停留所では4人降りて5人乗りました。D停留所では2人降りましたが誰も乗りませんでした。さて、バスの運転手の年齢はいくつでしょうか？

[答え] 自分の年齢が正解

○訊く（質問）…相手が話したいことを引き出す（聴きたいことではない）

	オープンクエスチョン	クローズドクエスチョン
特徴	発散・拡大	収束・限定
答え方	決まっていない（5W1H）	決まっている（YES/NO、数量、固有名詞）
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をたくさん引き出せる ・意見が出やすく、深まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・結論が得られる ・質問が簡単
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・質問が難しく、工夫が必要 ・相手が答えにくいことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返すと相手にストレス ・浅いコミュニケーションになりやすい
活用例	<ul style="list-style-type: none"> ・確認する 「○○という？」 ・相手と考える 「例えば？」「具体的には？」「他には？」 ・意見を深掘りする 「もう少し詳しく教えてください」 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の同意を得る 「この内容で間違いありませんか？」 ・論点を絞る、決断する 「月末まで出来ますか？」 「○○というまとめで相違ありませんか？」 「何名が参加したのですか？」

研修を参考にしたオープンクエスチョンとクローズドクエスチョンの例

③ 構造化のスキル（収束）

これはステップの「収束」である。出された意見などをお互い合わせて整理する。それぞれが思っていることが違っていたりすることを確認したり、曖昧なものを明確にしたりすることで「発散」された意見を分かりやすく見えるようにしていく。

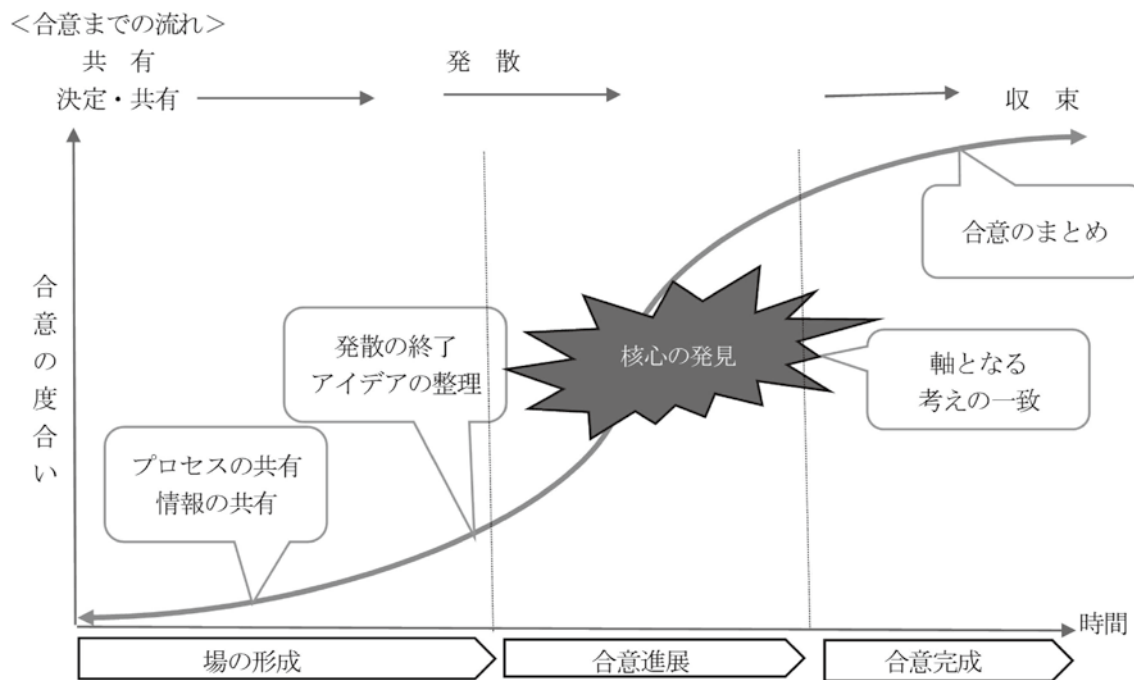
○話の見える化…ホワイトボード、模造紙などを使って出た意見などを付箋などでグルーピングする。グラフィックアートによって記録する。など

◆お絵描きタイム：①月、②山、③木、④家を描こう

→ [効果] 同じ物でも人それぞれ考えが異なることを認識することができる

④ 合意形成のスキル（決定）

最後のステップは「決定」である。これはまさに意見をまとめて分かち合うことだが、この研修中にはここまで触れることができなかつた。しかしながら、タイムキープの重要性や改めて目的と目標を確認する重要性を確認した。また、声の大きい人や力のある人にこの合意形成が左右されないルールづくりや進め方について考えを深めた。



【ファシリテーション研修の様子】

話し合いをデザインする5つの要素

この研修で重要視されたのがステップの最初である「共有」の場のデザインスキルである。これは会議のような話し合いだけでなく、学びの場や生活の中など様々な場面で活用できるステップである。プログラムを設計する上で重要なこの事前準備として以下の5つの要素が挙げられた。

① 目的…何のために？

このチームは何を目指して活動するのかということについて考えを共有することで、全員が同じ方向を向く必要がある。

例：学んだことをインプットだけに終わらせず、現場でどのように活かせるかについて考える。

② 目標…何をどこまで？

話し合いなどを終えた後に何が決定されていけば良いかについて共有する。達成点とも言えるかもしれない。あくまでも目標は最終到達点で、目標はそのために必要な具体的な決定である。話し合い等の出発点と到達点を明確にすることで、限られた時間を有効かつ参加者にとって有意義に進めることができる。

例：活かせる場について、たくさんの意見が出ている。

③ 進め方…やり方や時間配分

どのように進めるのか、それぞれにどのくらいの時間をかけるのか参加者に意識してもらうことが重要である。また、会場にある物品、ホワイトボードや模造紙、付箋、マジックなど、まとめる上で何にどのようにすれば良いのか具体的である方が進めやすい。

例：目的と目標の確認、アイデア出し（できるだけたくさん）

④ メンバーとその役割

参加者は誰で、それぞれどんな役割を果たすのか決めておく。

例：ファシリテーター、記録、タイムキーパー

⑤ ルール

進めるにあたって参加者が守るべきルールを決めておく。参加者が「〇〇しやすくする」ため、目的に応じた工夫が求められる。アイデア出しがポイントなのか、意思決定なのかによっても違うため経験やアイデアが試される。

例：人の話をしっかりきく。遠慮しないで発言してみる。

(参考：堀公俊「ファシリテーション入門」日本経済新聞出版社 2004年より)

ワークショップ[ファシリテーションの練習]

○話し合いをデザインする5つの要素 [場のデザイン③プログラムデザイン]

※A・B・Cの3つのグループにてグループワークを実践

- ①目的：何のために話し合うのか？社会教育主事として現場でどのように活かせるか考える。
- ②目標：何をどこまで？（終了時間にはどこまで決まっていればいいのか）
- ③進め方：やり方、時間配分（何を、どのように決めるのか）
- ④メンバーとその役割（誰が何をするのか）：ファシリテーター、記録、タイムキーパー
- ⑤ルール：決め方は自由。本日のグラドルール『ふりかえりを大事にしよう』

○3つのグループのメンバー構成

Aグループ（村上 [川崎町]、吾妻 [大河原町]、佐藤深 [七ヶ宿町]、半澤 [村田町]）

Bグループ（小野 [大河原町]、成澤 [蔵王町]、佐藤克 [角田市]、大津 [仙南広域]）

Cグループ（荒井 [丸森町]、櫻井 [白石市]、菊地 [柴田町]、八島 [教育事務所]）

(1) 自己紹介

A4を4つに分け、お名前・所属・趣味特技・今日の目的を記載。自己&他人からの評価を受ける。

お名前	所属
得意なこと、好きなこと	この研修に期待すること

記載の仕方

(2) グループ討議 「〇〇を改善する会議等」

◇Aグループまとめ方（発表：吾妻）

- ①使いたい場所：課内会議、0から1を生み出す話し合い など
- ②職場で活かす：事業を円滑に進める、職場で分からないことが聞ける雰囲気 など

●まとめ

- ・場の「整理」と「仕切り」を混同しないようにする。
- ・議論における分かりやすさや、道筋づくりを心掛けることがファシリテーターの役割である。

◇Bグループまとめ方（発表：大津）

- ①改善したほうが良い事業：親子向け講座の工夫、民俗資料の保存活用 など
- ②意見を出してもらうための方法：意見の見える化と整理、トーキングスティック など
- ③意見を整理するための方法：お絵かきタイムなど場を和める工夫、曖昧なことの確認 など

●まとめ

- ・「ギャラリーウォーク」を行い、他のグループの良い点を参考にする。
- ・意見の引き出すには、「オープンクエスチョン（答え方が決まっていない場合）」と「クローズドクエスチョン（答え方が「はい・いいえ」など限定的な場合）」を組み合わせで行う。

◇Cグループまとめ方（発表：荒井）

- ①活かせる場所：話し合いの場では裏方になり、意見がスムーズに出るように支援するなど
- ②大事にしたい場所：1つ目の意見を書き出すことが難しいので、そこを書き出せるようにしていただくなど

●まとめ

- ・ファシリテーターの役割をする際にはどのような意見を出してもらうかある程度まとめておかないと探り探りで意見を出してもらわなくてはならなくなる。
- ・ゴールを想定したほうがまとめやすいので意見の共有が必要である。

<講師より講評>

- ◇「決まったものがある場合の対応はどうすべきか？（Aグループより）」については、上の方は答え（案）を提示すると思うが、下の方がファシリテートする場合、例えばホワイトボードを用意して出席者の意見を記入して整理したりするなど話し合いに役立つ作業を行うと良い。
- ◇隠れファシリテーターになって欲しい。自分がまとめ役でなくても話し合い中に意見を出す時に、話の流れを掴み、要点を捉えた意見を出す参考となる。
- ◇合意形成において、多数決で話し合いを決めることも悪いことではない。ケースバイケースで。
- ◇自分が言いたい意見がある時は、ファシリテーターにならない。リーダーもファシリテーターにはならないこと。
- ◇「ギャラリーウォーク」を行い、グループワークにおいて他のグループの意見を見聞きして参考にすると良い。グループの考えがまとまらない時など意外に役立つことが多い。

<やってみてどうでしたか？>

【ふりかえりのヒント】

- ・話しやすい雰囲気がつくれていましたか？
- ・意見をたくさん出すことはできましたか？
- ・誰かの意見や質問で新しいアイデアが生まれましたか？
- ・自分の意見をしっかりと受け止めてもらえましたか？
- ・意見の整理は上手くできましたか？
- ・どんなところが難しいと感じましたか？
- ・もっとこうすればよくなる！と思うことはありましたか？
- ・いつもの話し合いと違うなと感じたことはどんなことですか？

ファシリテーションの実践

ファシリテーションの実践

<概要>

- 期日 令和5年10月4日（水） ※第5回研修委員会として開催
- 場所 柴田町 船迫公民館
- 内容 令和5年9月21日（木）に開催したファシリテーション研修会の振り返りとして、①住民の主体的な参加のためのきっかけづくり ②ネットワーク行政の実質化 ③地域の学びと活動を活性化する人材の活躍 の3テーマのグループに分かれて、研修委員がファシリテーションを実践した。その後、事前の想定に基づいた準備や意識したこと、実践を通しての所感を共有した。

<実践方法>

実践するにあたり、「新たな社会教育の方向性」に基づく各市町の取組や課題感を事前に研修委員会で共有し、テーマを設定した。

ファシリテーター役と参加者役に分かれ、ファシリテーター役は研修会で学んだことを参考に、グループワークで実施するアイスブレイクやテーマについて、実践の時間内でどのように進行するか想定して臨んだ。

- 1 巡目テーマ：「住民の主体的な参加のためのきっかけづくり」を推進するうえで、課題となる〔参加者の固定化〕について」

※がファシリテーター役

Aグループ：佐藤〔角田市〕・菊地〔柴田町〕・櫻井〔白石市〕・高橋〔柴田町〕

Bグループ：半澤〔村田町〕・大津〔仙南広域〕・小野〔大河原町〕

Cグループ：成澤〔蔵王町〕・荒井〔丸森町〕・菅原〔教育事務所〕

- 2 巡目テーマ：「ネットワーク行政の実質化を推進するうえで、課題となる〔他部署との連携〕について」

Aグループ：菊地〔柴田町〕・櫻井〔白石市〕・成澤〔蔵王町〕・高橋〔柴田町〕

Bグループ：大津〔仙南広域〕・小野〔大河原町〕・佐藤〔角田市〕・半澤〔村田町〕

- 3 巡目テーマ：「地域の学びと活動を活性化する人材の活躍を推進するうえで、課題となる〔地域人材活用〕について」

Aグループ：櫻井〔白石市〕・成澤〔蔵王町〕・菅原〔教育事務所〕

Bグループ：小野〔大河原町〕・佐藤〔角田市〕・菊地〔柴田町〕

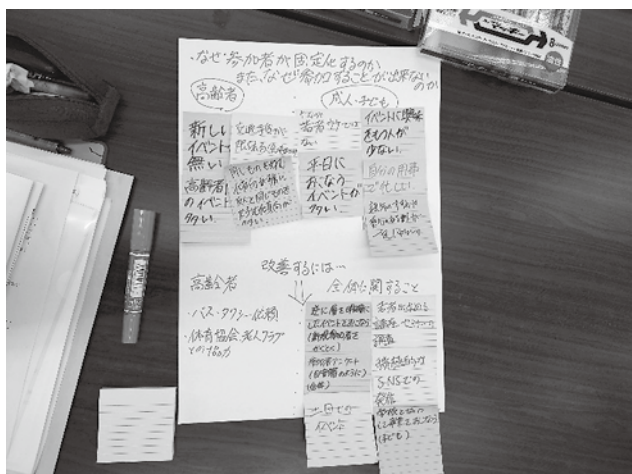
Cグループ：荒井〔丸森町〕・半澤〔村田町〕・大津〔仙南広域〕

<実践の様相>

上記のグループごとに分かれて、1つのテーマにつき50分で、アイスブレイク→グループワーク→ギャラリーウォーク→実践の振り返りを行いました。



【グループワークの様子①】



【グループワークの様子②】



【グループごとの振り返り】



【ギャラリーウォーク】



【全体での振り返り】

<ファシリテーションの実践にあたり想定していたこと>

- 参加者が意見を出しやすいように話し合いのルールを作成し、話しやすい環境づくりを心掛けた。また、テーマに対して話し合う時間が短かったため、最終的な1つの結論は出なくても話し合いの中で参加者自身が何かヒントを得られればと思いながら、ファシリテーターを務めようと心掛けた。アイスブレイクである程度雰囲気をつくり、その流れで話し合いに持っていけば自然と発言が出ると思うのでアイスブレイクの時間を大事にしたいと思った。(白石市)
- 目標を「たくさん意見を出してもらい、集約する」ということに設定した。また、意見出しに集中し、出た意見を集約しやすいように、どのように分類するか事前に示した。随時、目的と目標の確認を行うような意識を持って臨んだ。(角田市)
- 短時間でアイスブレイク、発散、共有、収束を通して合意形成に至る必要があるため、事前の準備が重要になると考えた。アイスブレイクにおいては参加者が顔なじみ同士であることから、他者を紹介するゲームを用意して緊張を解くことを狙った。また、話し合うテーマとグラドルールは印刷したものを用意することで、参加者が考えをまとめる際に必要となる情報を常に確認できるようにした。(蔵王町)
- テーマに沿って、人と人をつなぎ、意見を引き出すためにファシリテートすることが必要になると考えた。コーディネーターのような調整やまとめ役ではなく、会議やプロジェクトをスムーズに進行させたり、アイデアが出しやすい雰囲気づくりなどが主な役割。会議の効率化や生産性の向上など様々な効果が期待されており、どの程度深くその資質が見ることができるか期待した。(大河原町)
- 「参加者の固定化」というテーマを実践するにあたり、告知の方法や日程・プログラム内容が大きく関わっていること、ファシリテーターとタイムキーパーの関係性が重要だと想定した。そのため、ファシリテーターとして議論の道筋を示して円滑に進めていけるように、事前に議論の内容やアイスブレイク・時間配分等を考えた。(村田町)

- 研修で学んだことの中で自分が特に印象深かったのは、「話しやすい雰囲気づくり」と「話し合いの目標・目的を定める」が重要であるということだ。グループワーク導入は参加者役が研修委員なので、会議などで顔を合わせる機会が多く、ある程度お互い打ち解けていることを想定してアイスブレイクを考えた。グループワークのテーマが、「他部署との連携」であったため、これといった正解を短時間で見出すのは不可能だと考えていたので、参加者に話を振ったり、参加者と被らないような意見を出したりなど、たくさんアイデアが出やすいような場づくりに努めようと考えた。(柴田町)
- 時間が短いため、アイスブレイクは道具がなるべく少なくなるような簡単なものを用意した。また、資料は1ページで簡潔にまとめ、課題などについて、意見を出しやすい形にした。(丸森町)
- アイスブレイクを行う際は、会場の場の雰囲気に合ったものが必要だと考えた。話し合いの内容につながるようなアイスブレイクを用意することで、よりスムーズに進行し、いろいろな意見が出やすくすることを狙った。(仙南広域)

<ファシリテーションを実践してみたの振り返り>

- 話し合いのルールを作成し、参加者が話しやすい環境づくりを心掛けたが、想定通りに持っていくのは難しく苦戦した。自由な発言といっても最初のきっかけや話題づくりが必要で、そこから膨らましていく必要があると感じた。また、ファシリテーターを務めるには「傾聴」することがとても重要であり、参加者の仕草、声のトーンなど、視野を広くしなければならない。そのためには実践や場数を数多く踏む必要があると感じた。(白石市)
- 付箋に書くことに終始せず、出た意見に共感や対話をしながら進めることができ、分類や集約もスムーズに行うことができた。課題設定の前提をもう少し具体的に示したほうが良かったのか、時間配分にもっと工夫があってもよかったのか、もっとたくさんの意見をもらうために工夫できたこともあったと思われた。ほかのグループのルールに、意見が出たら拍手するというのがあると思って良かった。「○○しやすくする」のがファシリテーションだとすれば、もっとできることがあるように思った。(角田市)
- アイスブレイクに使用する小道具や印刷したテーマ、グランドルールの提示によって、進行自体はスムーズに行うことができた。参加者自身がこうした場に慣れていたことも進行の助けとなったと思われる。また、テーマを常に確認できるようにしていたことで、テーマに沿った意見を引き出すことができたほか、事前に出ると思われる意見を予想していたことで、参加者同士の意見の共通点を挙げるなど即座に反応することができた。しかしながら、自分の市町の問題とその解決策までは共有できたが合意までには至らなかった。テーマの設定に課題があったと思われる。(蔵王町)
- 今年度、「社会教育主事のあるべき姿」を考察するにあたり、社会教育主事に求められる資質の1つであるファシリテーションの実践を、研修委員会で先進地視察研修を行う代わりに、その研修を初めて取り入れて行った。
講師の赤川泉美氏からのアドバイス等を参考に、「話し合いをデザインする5つの要素」を学んだ。

①目的（何のために話し合うのか）、②目標（何をどこまで）、③進め方（やり方、時間配分）、④メンバーとその役割、⑤ルール（決め方は自由。当日のグラドルールを設定する）の5つの要素を実践するために、意見を引き出す「オープンクエスションとクローズドクエスション」の織り交ぜや、非言語メッセージも読み取る、傾聴することなど五感を研ぎ澄ませながら多くの「気づき」を大切にすることの重要性を認識した。

1つの資質ではあるが、社会教育主事に限らずこれからの公務員等にとって、人々の意見を引き出す有効な手法としていい研修ができたかと思う。講師の赤川先生をはじめ関係各位にお礼を申し上げます。（大河原町）

- 社会教育主事に限らず公務員として、打ち合わせや会議等で様々な立場の人が話しやすくするために意見を引き出し、議論を円滑に進めるために適切な役割であると改めて感じた。時間配分や議論の内容を事前に決めていたため、多くの意見を引き出すことができたと考える。また、今回のように時間に限りがある場合のアイスブレイクは準備物が少なく、口頭でできる簡単なものが適していると感じた。短い時間で場の空気を和ませ、お互いの距離を縮め、緊張をほぐすために、様々なアイスブレイクや話し方を学んでいきたい。（村田町）
- 想定したことを実践してみたが、会話が途切れないようにと思うあまり、ファシリテーター役の自分がしゃべりすぎてしまったと思った。加えて、テーマに対する目標の設定も短時間のグループワークということもあり、緩く設定してしまっただけで、最後にまとめきれなかったと感じた。今回の実践は、自分たちでファシリテーター役と参加者役を行ったということもあり、円滑に進むよう協力していただいたところが大きかったと思われるので、今後、ファシリテーターとして臨むときは、研修で学んだことと今回の反省を生かし、「話しやすい環境づくり」と「目標・目的を定める」をもっと具体的なプランを練ったうえで実践していこうと思う。（柴田町）
- アイスブレイクは紙とペンのみを用意して行うものを準備していたが、手書きで書くものがあったため、思ったよりも時間を要した。グループワークの時間が短いので、口頭でできるもっと簡単なものの方が良いと感じた。グループワークでは、資料で挙げていた課題のほかにもいくつかの課題点が指摘され、解決策についても話し合うことができ、内容としてはどの市町でも共通して持っている課題であったため、意見は出やすかったが、約30分という時間ではあまり深い部分に入ることはできなかった。結果としてはもう少し時間をかけて、具体的な終着点を設定して話し合いを行えた方がより良い実践になったかと思った。（丸森町）
- 進行について、話し合いのゴールを明確にし、そのゴールに向けてどんな意見が出てほしいか考えながら進めていく必要があり、段取りを意識することが大事であることが分かった。限られた時間の中で話し合いを進行していくのはなかなか難しいので記録、タイムキーパーといった役割分担をすると良いということを実感した。（仙南広域）



まとめ・おわりに

ま と め

今年度の研修委員会では、「社会教育主事に求められる能力」とは何かについて改めて確認・整理することで、今後の社会教育への課題解決への手法や求められることの共通認識を図り、新たな社会教育の方向性を探っていくこととした。

平成30年12月21日中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、社会教育主事の役割として、社会教育行政の中核となり、企画の立案・実施し、専門的な助言・指導を通して人々の自発的な学習活動を援助することをあげており、今後はそれに加えて、地域課題解決の取組においてもコーディネート能力やファシリテーション能力などを発揮し、取組全体をけん引する重要な役割を担うことが期待されているとしている。

その後、令和2年度に「社会教育士」の制度ができ、社会教育主事と合わせてその役割に関する議論が中央教育審議会でも議論され、様々な答申などが出されている。

このような役割を担っていくことが期待されている一方で、大河原教育事務所管内では、社会教育主事の有資格者が減少し、初めて社会教育に係わる職員も増えている。このような現状の中で社会教育主事に求められる能力・役割とは何かと言うことをもう一度学ぶ機会を設けることで今後、地域の中で社会教育を推進するうえでの基礎知識を得られるのではないかと考え、今回のテーマを設定した。

必要な能力としては先に触れたコーディネート能力やファシリテーション能力のほか、プレゼンテーション能力なども考えられるが、今年度についてはファシリテーション能力に焦点を絞り、講師を招いて研修会を実施することとした。

研修会では特定非営利活動法人地星社の赤川泉美氏をお招きし、ファシリテーションにおける4つのステップ（共有・発散・収束・決定）とそれぞれの段階で必要となる4つのスキル（場のデザインスキル・対人関係のスキル・構造化のスキル・合意形成のスキル）について学び、ワークショップにて実践を行った。

また、先に挙げた答申では、新たな社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育の実現」を目指しており、①住民の主体的な参加のためのきっかけづくり、②ネットワーク型行政の実質化、③地域の学びと活動を活性化する人材の活躍の3つの観点を地域において社会教育がその意義を踏まえた役割を果たすための要件としている。この3つの観点から見た場合、どのようなことが各市町等の課題となっているか、研修で学んだことを踏まえてファシリテーションの実践として研修委員でグループワークを実施し、情報共有を行った。

グループワークでは3グループに分かれ、1つのテーマにつき、50分の話し合いを行い、研修委員それぞれがファシリテーター役として話し合いの進行役を務め、ファシリテーター役としてどのように準備を行い、実践してみてどのようなことを感じたのか振り返りを行った。

今年度の研修委員会では、「社会教育主事に求められる能力は何か」という課題として大きな括りの中から一つの能力をテーマとして抜き出し、それに基づいて研修・実践を行った。能力の向上は1回の研修で大きな効果を出すことは難しいが、1年をかけて考えていくことで効果を高め、今後の社会教育主事としての活動を行っていくうえでの一助とできれば幸いである。

お わ り に

本会へは平成23年度に社会教育主事補として入会していましたが、今年度は研修委員長という大役を務めさせていただきました。過去の記録を見返してみると、丸森町からの研修委員長就任は研修報告書第30号以来、20年ぶりということがわかり、随分期間が空いてしまっていたなという印象を受けました。

研修委員は何年か経験がありましたが、研修委員長となると、やはり意見をまとめ、場を回すという役割が必要になるので、研修を進めるにあたっては探り探り進めている状態でした。また、今年度は新しい試みとして、例年の半分ほどの協議時間で研修報告書を仕上げていくということとなりました。不安もありましたが、何とか研修報告書の形となり、こうして手に取ることができたことで、ようやく安堵できています。これもひとえに、研究協議会からの御指導、私とともに研修に励んできた研修委員の皆さまのお力添えがあつてのものであり、心より深く感謝申し上げます。

今回の研修委員会では、社会教育主事に求められる能力とは何かを考え、その1つとして、ファシリテーション能力を中心に設定して研修しました。例年であれば先進地視察を行っているところでファシリテーション研修会を実施し、続けて研修委員自身が実践を行うことで、ファシリテーション能力の向上を図りました。

もちろん、求められる能力はファシリテーション能力だけではなく、ほかにもあると思われませんが、前述した研修委員長として意見をまとめ、場を回すということも、このファシリテーション能力が必要なものであると改めて感じました。私個人としても鍛えていきたい部分でもあったので、研修を通して意識的に学び、今後に生かしていきたいと思います。

最後になりますが、報告書の発刊にあたり御支援及び御協力を賜りました多くの皆さまに厚くお礼を申し上げ、おわりの言葉とさせていただきます。

令和6年3月

令和5年度大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
研修委員長（丸森町社会教育主事）荒井 優作

【大河原地区社会教育主事研究協議会】

白石市	*櫻井 一樹		
角田市	辻 琴江	*佐藤 克宏	
蔵王町	我妻 健太	梶原 一貴	*成澤 大空
七ヶ宿町	○佐藤 深奈美		
大河原町	*小野 宏	吾妻 晃次	
村田町	岡本 健志	*半澤 快斗	
柴田町	☆高橋 秀之	大石 恵美	*菊地 駿
川崎町	◇村上 透		
丸森町	◎荒井 優作		
仙南地域広域行政事務組合	*大津 滉太		
宮城県大河原教育事務所	八島 信	*菅原 秀樹	

☆協議会長
◇協議会副会長
◎研修委員長
○研修副委員長
*研修委員

【令和5年度 研修委員】



柴田町 菊地 駿	村田町 半澤 快斗	蔵王町 成澤 大空	仙南広域 大津 滉太	白石市 櫻井 一樹	角田市 佐藤 克宏	教育事務所 菅原 秀樹
大河原町 小野 宏	研究協議会長 柴田町 高橋 秀之	研究協議会長 丸森町 荒井 優作	研修委員長 七ヶ宿町 佐藤 深奈美	研究協議副会長 川崎町 村上 透		

研修報告書 第50号

社会教育主事に求められる能力とは

～ファシリテーション研修・実践を通して～

令和6年3月31日発行

編集／大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会

発行／大河原地区社会教育主事研究協議会

印刷／株式会社 津田印刷

研修委員会のあゆみ 【これまでの研修報告書一覧】

No	年度	タイトル	研修代表者		
1	S48	宮城県における父母教師会活動に関する実態 ー調査報告書ー	県教育部長会編, 社会教育主事担当		
2	S49	仙南地域における母親の幼児教育に関する実態 ～3・4歳児を第一子に持つ母親～ 調査報告書	研修班長	白石市 白石市	太齋 享 伏見 光龍
3	S50	乳幼児教育の学習内容の研究 ～学習計画立案のために～	研修班長	白石市	伏見 光龍
4	S51	文化財保護行政をすすめるために	研修班長	丸森町	阿部 義郎
5	S52	生涯教育を推進するために	研修班長	川崎町	高山 恵弘
6	S53 S54	大河原教育事務所管内社会教育30年のあゆみ ～住民のこころに灯をともして～	研修班長	角田市 七ヶ宿町	咲間 庄三 根元 邦美
7	S55	学習プログラムの立案(婦人学級・高齢者教室・家庭教育学級)	研修班長	七ヶ宿町	根元 邦美
8	S56	青少年及び親の意識 調査報告書	研修班長	柴田町	澁谷 孝之
9	S57	社会教育推進上の諸問題と社会教育主事の果たす役割 ～教育委員会と公民館のあり方を中心として～	研修班長	角田市	齋藤 久
10	S58	社会教育における学習内容を充実させるための工夫 ～視聴覚教材の効果的な活用をとおして～	研修班長	川崎町	大宮 昭
11	S59	少年教育の充実をめざして ～管内における現状と課題～	研修班長	白石市	佐藤 重仁
12	S60	青年教育の充実をめざして・Ⅰ ー青年活動の実態ー	研修班長	丸森町	鈴木 悦郎
13	S61	青年教育の充実をめざして・Ⅱ 「青年の生活意識と余暇活動についての調査」報告書	研修班長	村田町	高橋 徳夫
14	S62	青年教育の充実をめざして・Ⅲ ー青年教育事業の進め方を考えるー	研修班長	角田市	大友 喜助
15	S63	スポーツ人口の拡大を図る一方策 高齢者向けニュースポーツの開発を通して	研修班長	大河原町	佐々木寿信
16	H元	スポーツ人口の拡大を図る一方策Ⅱ 高齢者向けニュースポーツの普及を通して	研修班長	角田市	太田 文夫
17	H2	大河原教育事務所管内社会教育40年のあゆみ 新しい学習社会への架け橋	研修委員長	丸森町	岡崎 勝志
18	H3	生涯学習の鼓動 青年・家庭・高齢者教育の充実をめざして	研修委員長	村田町	高橋 定光
19	H4	生涯学習の鼓動part2 成人・少年・婦人教育の充実をめざして	研修委員長	大河原町	尾形 彰
20	H5	学校週5日制と社会教育のあり方	研修委員長	川崎町	小林 志郎
21	H6	青年教育の充実をめざして・Ⅳ ー昭和61年度調査結果との比較・考察を通してー	研修委員長	蔵王町	日下 朝男
22	H7	生涯学習のまちづくりをめざして 生涯学習推進の現状と課題	研修委員長	村田町	山家 孝弘
23	H8	生涯学習の課題と展望 学社連携をめざして	研修委員長	白石市	小野 輝彦
24	H9	生涯学習の課題と展望 学社連携から学社融合へ	研修委員長	村田町	山家 孝弘
25	H10	生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざして	研修委員長	蔵王町	砂金 毅
26	H11	生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざしてⅡ ～公民館入門ーつどう・まなぶ・つながる～	研修委員長	大河原町	八島 良隆
27	H12	大河原教育事務所管内社会教育50年のあゆみ 新世紀・きえない虹をおいかけて	研修委員長	白石市	村上 忠敏
28	H13	学社融合の課題と展望 総合的な学習の時間における社会教育のアプローチ	研修委員長	七ヶ宿町	伊藤 貴子
29	H14	学社融合の課題と展望 学校教育と社会教育の協働をめざして	研修委員長	丸森町	菊地 浩二
30	H15	学社融合へのアプローチ 知って得する！文化財・その活用法	研修委員長	丸森町	伊藤 博道

研修委員会のあゆみ 【これまでの研修報告書一覧】

No	年度	タイトル	研修代表者		
			研修委員長	研修委員	研修委員
31	H16	ヤング・エボリューション ～青年の意識調査をとおして、今の青年たちを考える～	研修委員長	大河原町	小野 宏
32	H17	ヤング・エボリューションⅡ ～青年教育の活性化をめざして～	研修委員長	村田町	鎌田 浩孝
33	H18	動き出した次世代育成支援 ～これからの子育て支援の在り方を考える～	研修委員長	七ヶ宿町	高橋慎太郎
34	H19	時代を映してきた視聴覚教育 ～使ってみよう自作視聴覚教材～	研修委員長	角田市	八島 利美
35	H20	がんばってます！ジュニア・リーダー ～過去 現在 そして未来へ～	研修委員長	川崎町	村上 透
36	H21	生涯スポーツの振興をめざして ～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～	研修委員長	柴田町	大川原真一
37	H22	生涯スポーツの振興をめざして vol.Ⅱ ～仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ～	研修委員長	白石市	小室 徹彦
38	H23	大河原教育事務所管内社会教育60年のあゆみ ～変わり続ける時代を生きる～	研修委員長	角田市	大内 克典
39	H24	協働教育推進へのアプローチ ～各市町の実践から見えたもの～	研修委員長	川崎町	富田 丈靖
40	H25	これからの成人・高齢者教育を考える ～地域活動と学習に関する意識調査～	研修委員長	柴田町	加藤 栄一
41	H26	これからの成人・高齢者教育を考えるⅡ ～住民とともに豊かな学びをめざして～	研修委員長	大河原町	伊藤 敏之
42	H27	子育て・家庭教育支援の充実をめざして ～手と手をつなぐみんなのチカラ～	研修委員長	柴田町	木村 正人
43	H28	未来に伝えよう！地域の文化財 ～社会教育的視点からのアプローチ～	研修委員長	川崎町	佐藤伸一郎
44	H29	元気な地域づくりをめざして ～青少年の地域活動に関する意識調査～	研修委員長	七ヶ宿町	小掠 政光
45	H30	元気な地域づくりをめざしてⅡ ～新時代へつながる地域活動とは～	研修委員長	村田町	岡本 健志
46	R元	集まれ公民館！開け学びの扉！ ～令和の社会教育施設を考える～	研修委員長	角田市	齋藤 史織
47	R2	これからの社会教育の本質を考える ～持続可能な地域づくりをめざして～	研修委員長	白石市	森 健光
48	R3	大河原教育事務所管内社会教育70年のあゆみ	研修委員長	大河原町	吾妻 晃次
49	R4	元気な団体の秘訣を探る～元気に活動する2つの団体の調査をとおして～	研修委員長	柴田町	渡辺 光
50	R5	社会教育主事に求められる能力とは～ファシリテーション研修・実践を通して～	研修委員長	丸森町	荒井 優作

